優良企業・信金中央金庫理事長賞

節句人形 コンパクトに、かわいく

ふらここ（東京都中央区）

ショールームに並ぶ五月人形と原英洋社長＝東京都中央区のふらここで

東京・首都圏 光る中小企業

子どもの手に乗るほどの大きさで、赤ちゃんのような真ん丸顔。ふらここ（東京都中央区）が製造・販売する五月人形やひな人形は伝統的な形式にとらわれない作風で、主に若い親たちの心をとらえている。

創業は二〇〇八年。新たな作風は、祖父から続く人形師の家に生まれた原英洋社長（五九）の問題意識がもとになって生まれた。

原さんは大学を卒業した二年後に父が急死し、家業の人形店で働き始めた。当時、人形は祖父母が孫のために買うもので、人の背丈ほどもあるひな壇が主流。しかし日々客と接する中で、原さんは核家族化の進行で人形を買う主体が祖父母から若い親に移り、場所を取るひな壇が敬遠されるようになっていくのを肌で感じていた。

「このまま昔ながらのものを作っていたら、飽きられてしまうのではないか」。伝統を重んじる職人の猛反対に遭いながらも原さんは別会社を設立し独立。「コンパクトで、かわいい」人形の販売を始めた。

売れる確信はあったが、反響は想像以上だった。初年（〇八年）度に作った三百体は完売。翌年度は二倍、翌々年度も前年度の二倍を売り切った。

業績は今も右肩上がりを続けているが、創業六年目には大きな危機もあった。繁忙期に社員間で業務量が偏り、社員との対話の時間も取れず、就業ルールを巡って意見が対立。社員の半数近くが退職した。

その後、社員の希望を吸い上げて人事制度を刷新。社員間のコミュニケーションを大切にし、正社員一人あたりの月平均残業を十時間以内に抑えるなど、反省を組織づくりに生かした。

「二〇一一年度優良企業」（東京都信用金庫協会など主催）で「信金中央金庫理事長賞」を受賞した。原さんが今、見据えるのは業界全体の再興。「この三十五年で業界規模は約半分になった。お客さまに望まれる商品が多く出てくるようになれば、業界も元気が出てくる。その先駆けになれれば」と話す。

企業データ

▽従業員数＝30人
▽売上高＝6億7000万円
▽所在地＝東京都中央区東日本橋3の9の8
▽社長ひと言＝お客さまが何を望んでいるのかを把握した上で、喜ばれるものづくりを進めることが大切。